

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	子ども家庭支援センターみらい		
○保護者評価実施期間	2024年12月10日		～ 2025年 1月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2024年12月2日		～ 2025年1月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが安心して通園し、保護者の方も事業所の取り組みを理解し、満足して通園していること。	<ul style="list-style-type: none"> 子ども、保護者にとって安心できる場や人となる。 気持ちに寄り添い、願いに気づき、個々に応じた信頼関係の構築。 オリエンテーションや学習交流会の開催や日々の療育や支援についての説明の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援事業所の役割を理解とめざすもの共有 活動プログラムや支援についての検討会の充実(日々の打ち合わせ、反省会も含む) 事業所の取り組みについての情報発信の工夫
2	保護者会があり、子どもを真ん中に運営や療育活動について語れる場があること。	<ul style="list-style-type: none"> 社会情勢、事業所の取り組み、子どもの発達等々について、語る場づくり(みらいカフェ・保護者学習交流会・各組織の会等) 親子活動や家族参加の行事の開催 保護者会活動や行事に向けた取り組みの中でのよりよい関係づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会運営のサポート みらいカフェ及び保護者学習交流会の充実 タテのつながりづくり(これまでのアンケートの要望より) 父親学習交流会開催
3	子どもの発達支援を学び合い、互いに高め合い、療育実践につなげていく思いのある職員集団があること。	<ul style="list-style-type: none"> 各クラス会、職員会、研修会等以外にも、課題に応じて集い、話し合う場づくり 理念の共有、福祉労働者としての責務についての共有、社会をつくる一人としての意識等を語り合う場の保障 実践検討会及びリーダー研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な実践検討会の開催 職員研修の充実 定期的な個別面談及びメンタルヘルスケア

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時に対する事業所の取り組みについての発信、各種マニュアルについての保護者への周知と説明。	<ul style="list-style-type: none"> 入園時の契約の際やオリエンテーションの中で説明をしているだけになっている。 手に取れるように掲示しているが、実際手に取って確認している保護者は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 非常時に対する事業所の取り組みについてを主にした学習交流会の開催 各種マニュアルの掲示場所の工夫や保護者と毎月のおたよりの中に紹介するコーナーをつくる
2	きょうだい児向けのイベントやきょうだい児同士の交流の場づくり。	<ul style="list-style-type: none"> 年1回は家族で集う遊びの会を実施しているが、きょうだい児を主に企画した交流の場は現在はない。 	<ul style="list-style-type: none"> 各家庭の実態把握 家族で集う遊びの会の中に、きょうだい児同士の交流の場をつくる(きょうだい児活動)
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	子ども家庭支援センターみらい
------	----------------

公表日 2025年 2月 18日

利用児童数 17

回収数 16

	チェック項目	回答状況				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	16					基準以上のスペースを確保して活動をしてしています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	16					法令に従った職員数以上を配置しています。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	15	1			・子どもにわかりやすい配置にしている。 ・エレベーターがないので、車いすの子どもはどのように昇降するのか。	引き継ぎ子どもにとってわかりやすい環境を確保していきます。 現在、車いすを使用している子どもが在籍していないため、エレベーターの設置は考えていませんが、利用する子どもの実態に応じて対応していきます（安全安心を保障し、発達を促す視点で考えていきます）。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	14	1	1		・賃貸マンションのため狭く、子どもに合わせた空間ではない	ご意見はおそらくご家庭の生活空間のことを記入しているようです。 事業所としては子どもの活動に合わせて空間づくりを努めていきます。
適切 な支 援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	16				・子どもの変化に気づき、よりそい、支援して下さっている。	今後も子どもの変化に気づく目を持ち、一人一人の子ども理解を深め、発達を支援してまいります。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	16					引き続き、支援プログラムと支援内容がしっかりと関連づき、よりよく発展していくことを目指します。
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	16				・その度、ニーズや課題が支援計画が作成されている。	子ども理解、ニーズや課題の分析力を高めながら、個別支援計画を作成していきます。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	16				・子どもの支援に必要な項目が適切に設定されている。	子どもの支援に必要な項目を選択し、できるだけわかりやすく表記し、具体的な支援内容の設定を心がけます。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	16				・支援計画に基づいた内容だと思えます。	支援計画に沿った支援を行っています（児童発達支援管理責任者を中心に実態把握、発達支援検討会を開催）。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	16				・固定化されず、その度工夫されている。	子どもの発達課題に応じた活動プログラムづくりに努めています。今後も活動の意味や成果をわかりやすく発信していきます。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	8	6	2		・必要だとも思いません。・妻の芽関連施設では触れ合っているが、地域の子どもとは触れ合っていないと感じる。	併行通園児が9割を占める事業所のため、関係する園との連携に努めていただいています。同法人の保育園とは行事を通じた交流を実施しています。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	16					わかりやすい説明を心がけていきます。説明後もわからないことがあれば気軽にお尋ねください。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16				・毎回（前期と後期）とても丁寧に説明していただいています。 ・十分な支援内容の説明されている。	家庭との共通理解が何よりも大事だと考えています。支援内容に納得した上で教育に通ってくださることを望んでいます。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	16				・定期的に保護者学習会が開催されとても勉強になります。	今後も定期的な事業所内の保護者学習会の実施、外部の研修会等の情報提供を積極的に行っていきます。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	16				・子どものことで気になること等、何でも相談のついでに聞いています。 ・アドバイスも的確で助かります。 ・子どもの状況を報告し、共通理解できています。	今後も子どもの“今”をしっかり見て、相互理解を図り、よりよい支援や家庭生活につながっていきます。家庭での様子、幼稚園保育園の様子等を教えていただくと有難いです。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	16				・子どものことを冷静に客観的に見てもらっていて、よく気づいてくださいます。・具体的に助言して下さっている。	定期的な面談以外の相談（気軽な）が増えてきています。これからはもっと聞いてみようと思ったら声をかけてください。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	16				・とてもよく共感してもらっています。 ・安心して相談することが出来ます。	一緒に考えて、一緒に喜び合うことができる関係でありたいです。一番の理解者であり、味方でありたいと思っています。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	13	2	1		・保護者同士の交流がよくあり、助けられています。 ・きょうだい同士の交流はわかりません。家族参加デーのことか？ ・定期的に交流会が設けられ保護者同士の交流が出来る。	保護者同士のつながりは何よりも力になり、心の支えにもなります。今後も親の会活動を支え、よりよい連携を図りながら、学習の場、交流の場をつくっていきます。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16				・都度、相談のついでにもらっています。場合によっては、関係機関についでにもらっています。	相談や申入れについて、迅速な対応を心がけています。相談できる場であり、対応できる体制をつくっています。必要に応じて関係機関へつなぎ、よりよい解決方法を見つけていきます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	16					信頼関係を構築しながら、個々に応じた意思疎通や情報伝達に努めています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	11	3		2	・情報の共有は、丁寧にわかりやすくされていて助かりますし、安心感があります。 ・SNS,ホームページでは発信されていない。	自己評価の結果は毎年ホームページに掲載しています。活動等については毎月のクラスだより、みらいカフェでも情報提供しています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	13	1		2		個人情報の取り扱いができるだけ慎重に取り扱っています。定期的に職員会議の中で注意喚起しています。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	12	2		2	・定期的に訓練が行われています。 ・マニュアルはわかりません。	各種マニュアルを作成し、掲示しています。年度はじめのオリエンテーションで説明していますが、十分とはいえないため、周知していただけるよう努めています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	15			1	・定期的に訓練が行われています。	法令に従って訓練を実施しています。今後も、様々な非常災害を想定した訓練を実施していきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	14			2		園外活動の際は特に活動内容や安全対策について丁寧な説明を心がけていきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16				・小さなケガ（すり傷など）でも必ず報告説明があります。	事故（怪我等含む）発生の状況や説明は速やかに行うように努めています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	16				・子どもは、療育に行くことを毎回楽しみにしています。それは、スタッフや場所が安心できる場になっているのだと実感しています。 ・いつも「みらいに行きたい!」と楽しみにしている。 ・信頼関係を築けていて、安心感をもっています。	子どもたちにとってみらいは安心できる場所であり、大好きな人や大好きな仲間がいる場所であるように努めます。無条件に愛され、受けとめられる経験を十分に保障します。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	16				・毎日お友達や先生に会えるのを楽しみにしています。	子ども自身が発達的主人公となって過ごすことができる場であり、自己肯定感を育む場であり続けます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	16				・大変満足しています。親子で助けられています。 ・子どもとの向き合い方が丁寧で、本当に感謝しています。 ・とても満足しています。	今後子どもたちの思いや願いを形にし、一人一人の気持ちに寄り添った支援に努めていきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		子ども家庭支援センターみらい				公表日 2025年2月18日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法令に従って十分なスペースを確保している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		法令に従った職員数を配置している（現在は配置以上の職員数である）。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		子どもの実態に応じた環境づくりを心がけている。子どもにとって過ごしやすい生活導線や空間を保障している。 室内はバリアフリー、階段は手すりあり。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		こまめに清掃、消毒を行っており、定期的に安全点検を行い、安心、安全な環境づくりに努めている。活動に応じた空間を準備し、心身ともに解放して活動できる環境を保障している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		子どもの状態に応じていつでも個別の部屋を提供することができ、子ども自身が安心して過ごすことができるように努めている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		全職員で成果と課題を共有し、意見交換する時間を設けている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表、日常的な親の会との連携、意見箱、アンケート等をもとに、改善の必要性があればできるだけ迅速な対応に努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日常的なコミュニケーション、クラス会、職員会議の中で、業務改善が必要なことを話し合う時間を設けており、改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		法人で定期的に行っている。必要に応じて改善につなげている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人研修、外部研修、内部研修の年間計画を立てて実施している。職員へのアンケートをもとにしながら、内容や学びの場の工夫に努めている。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		年間計画、月計画、日々の支援プログラムを作成し、公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		相談支援専門員、保護者、子どもからの聞き取りを丁寧に行い、ニーズや課題を分析、検討した上で、支援計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者を中心に、相談支援専門員、関係する専門職、主任保育士、担当保育士等と、一人一人の発達課題を協議して計画作成を行っている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画を全職員で共有し、共通理解のもと支援を行っている。定期的にモニタリングを行い、児童発達支援管理責任者が責任を持って、計画に沿った適切な支援が実施されているか確認している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化されたアセスメントツールを使用している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		児童発達支援ガイドラインに即した支援計画項目を設定している。支援内容は具体的に保護者にわかりやすい内容となるように努めている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		年間、月、週、日、行事等、担当職員を中心に、チームで療育内容の検討を行っている。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		年間計画作成の中で、療育内容を検討しており、季節の行事、子どもの実態に応じた活動内容の工夫を行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		集団活動の中に、個別の課題に応じた支援を取り入れており、個々の発達課題に適した活動と支援に努めている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		日々の指導案は遅くとも3日前までには出されており、必ず事前に打ち合わせを行い、支援に従事している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後は反省会を行っている。参加できない職員に関しては、必ず文書での申し送りを行い、共通理解に努めている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		子どもの実態、支援のポイント、子どもの変化、今後の課題につながる内容を記録するように心がけている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを行い、支援計画に沿って、実態を把握し、必要に応じて見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		基本的に児童発達支援管理責任者が出席しているが、ケースに応じて担当職員も同席している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		関係機関との連携は何よりも大事であるため、迅速に対応できるように体制を整えている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		子どもの実態に応じて併行通園移行に向けた支援を行っている。現在は8割の園児が併行通園児であるため、支援計画や支援のあり方についての情報を共有し、相互理解に努めている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		各学校へ情報提供を行い、相互理解に努めている。就学後も必要に応じて訪問や連携会議を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			児童発達支援センター主催の会議への参加や必要に応じて連携をとり助言を受けている。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○			殆どの園児が併行通園児であるため、地域の子どもと活動する機会は日常的に保障されている。法人内の保育園と交流できる行事がある。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			活動後の引継ぎ等で、子どもの姿をできるだけ具体的に伝えられるように努めている。家庭での様子や併行通園先での様子も含めて聞き取り、子どもの状況や課題について共有できるように努めている。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			定期的に保護者学習会、交流会を実施している。法人内の研修や県内外の研修についても情報提供を行っている。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			入園前の体験時や契約時にできるだけわかりやすく説明を行っている。契約後も不明な点があればその都度対応している。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			必ず事前のモニタリングの際に、こどもや家族の意向を確認している。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		個別面談の時間を設定し、支援計画内容について説明を行い、保護者の同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的な面談及び保健師による面談の実施。相談に対してできる限り迅速な対応を心掛け、必要に応じて関係機関へつなぎ、保護者の抱えている悩みが解決していくように努めている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		親の会と連携し、保護者同士が楽しく交流する場、共に学び合う場をつくっている。法人の家族会、県父母の会等、タテとヨコのつながりづくりも大事にしている。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談や申入れに対して、迅速な対応を心がけている。気軽に相談できる関係（人）であり、場所であるように努めている。相談内容によっては、関係機関へつなぎ、よりよい解決策を見出していく。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		法人会報、事業所内おたより等、定期的に発信している。活動や行事についての発信は個人情報保護の観点から、直接のプリント配布が主である。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取り扱いには契約時に説明し同意を得ている。取り扱いは十分注意している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		個々に応じて必要な支援を行い、よりよい関係を築きながら、必要な配慮や工夫を行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		行事への招待、療育活動の中での関わり等、子どもたちが地域を感じ、地域の人とつながる機会をつくっている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを作成している。定期的に訓練、研修を実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画を策定し、全職員に周知している。定期的な訓練と研修会を実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		契約時に確認している。園内健診（年2回）では予防接種状況も含めて確認し、必要に応じて医療との連携を図っている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		該当児なし ※該当児がいる場合は必ず医師の指示に基づいて対応している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、支援を行っている。ヒヤリハットを共有し、定期的に安全管理について検討している。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			取り組み内容について伝えてはいるが、家族等への理解はまだ不十分である。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		朝礼や毎月の会議で報告し、全職員で共有している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		定期的に研修を行っている（人権についての学習会も）。外部の研修にもできるだけ参加している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		定期的に研修を実施しており、身体拘束についての有無は支援計画に記載している（身体拘束が必要なケースは現在はいない）。	